

**令和4年度
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和4年12月
海老名市立今泉中学校**

令和4年度

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

(1)教科に関する調査(国語, 算数・数学及び理科)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

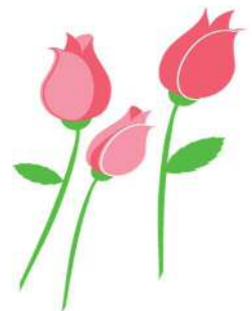
(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

調査実施日

令和4年4月19日(火)

※児童生徒質問紙調査について、一部の学校で、端末を活用したオンラインによる回答方式で実施



中学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫できるかどうかをみる。
- ・論理の展開などに注意して聞くことができるかどうかをみる。
- ・自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかをみる。
- ・助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことができるかどうかをみる。
- ・文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。
- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。
- ・表現の技法について理解できているかどうかをみる。
- ・事象や行為、心情を表す語句について理解できているかどうかをみる。
- ・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。
- ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができるかどうかをみる。
- ・行書の特徴を理解することができるかどうかをみる。
- ・漢字の行書の読みやすい書き方について理解できているかどうかをみる。
- ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解できているかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 文脈に即して漢字を正しく書く問題の正答率が高い。
- 話すこと・聞くことの領域に関して正答率が高い。
- 全体的に神奈川県や全国の平均正答率を上回っており、どの学習領域においてもバランスよく知識の習得がみられる。

◆課題のある点

- 「書くこと」と「情報の扱い方に関する事項」の正答率が全国的にも本校としても低い結果となっている。
- スピーチの一部を直す問題の正答率が全国平均を下回っている。
- 記述式の問題の無解答率が高い。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 作文など、文章を書く問題に多く取り組みます。
- 自分の考えを持ちながら文章を読んだり書いたりできるよう取り組みます。
- 日常的に様々な文章に親しむ時間を持ち、語彙力・読解力の向上に取り組むとともに、言葉の意味についても理解し、使える語句を増やせるよう取り組みます。

中学校 数学

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・自然数を素数の積で表すことができるかどうかをみる。
- ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができるかどうかをみる。
- ・反例の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・一次関数の変化の割合の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる。
- ・式を変形したり、意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。
- ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる。
- ・データの傾向を的確に捉え、理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。
- ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
- ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 反例の意味を理解しているかどうかをみる問題。
- 簡単な連立二元一次方程式を解くことができるかどうかをみる問題。
- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているかどうかをみる問題。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる問題。

◆課題のある点

- 自然数を素数の積で表すことができるかどうかをみる問題が課題である。
- 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができるかどうかをみる問題が課題である。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題が課題である。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 1、2年生のうちに習った素因数分解や箱ひげ図の内容を忘れていたことが見受けられたので、内容を復習します。
- 単純な計算問題や、答えを導くことはできていますが、その方法を説明することができるかという問題になると、正答率が低くなります。授業の中で、答えを導くまでの道筋を説明する学習に取り組み、深く理解できるように工夫します。

中学校 理科

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる。
- ・静電気や気圧、岩石、状態変化に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる。
- ・天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる。
- ・水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる。
- ・化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる。
- ・水素を燃料として使うしくみとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる。
- ・複数の脊椎動物のあしの骨格について比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる。
- ・物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる。
- ・課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる。
- ・大地の変動について他者の考察を、検討して改善できるかどうかをみる。
- ・時間的・空間的な見方を働かせながら、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる。
- ・実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる。
- ・未知の節足動物とアリを比較して、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 水素を燃料として使うしくみとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる問題や時間的・空間的な見方を働かせながら、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる問題は、全国の正答率に比べて高い正答率となっている。
- 変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる問題や水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる問題は、ほかの問題よりも正答率が高く、理解しているといえる。

◆課題のある点

- 日常生活の中で、物体が静電気を帯びている現象を問う問題や物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる問題の正答率が低く、課題がある。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行う場面をつくっていく必要があります。エネルギー分野の正答率が低かったので、類似した問題に取り組みます。

生徒質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

- 土曜日や日曜日など学校が休みの日の、1日当たりの勉強時間「2時間以上」「3時間以上」「4時間以上」のすべての割合で県や全国平均を上回り、学習習慣が定着している様子が窺える。平日の、学校の授業以外の勉強時間についても1時間以上の学習習慣がある生徒の割合は県・全国平均を上回っている。特に「3時間以上」と回答した生徒の割合は22%と県・全国平均を大きく超えており、家庭の支えを背景に進路選択に向けての取組が進んでいると考えられる。
- 「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」について、「発表していた」と回答した生徒の割合が35%と県・全国平均を大きく上回っている。「どちらかといえば、発表していた」を合わせると80%に迫る割合で、情報を発信する資質・能力が順調に育成されていると考えられる。

◆本校の課題と思われるところ

- 学校におけるPC・タブレットなどの使用頻度を問う4つの項目について、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した生徒の割合は合計でそれぞれ10数%にとどまり、県や全国平均の3分の1程度である。「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対しては90%以上の生徒が「役に立つ」「どちらかといえば役に立つ」と回答している状況と照らし合わせて、学校側が授業づくりの面で早急に対応する必要がある。

生活について

◆本校のよかったところ

- 「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対し、「当てはまる」46%、「どちらかといえば、当てはまる」35%と、自己肯定感を得られている生徒の割合が高い。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」についても「当てはまる」50%と県・全国平均を大きく上回り、「どちらかといえば、当てはまる」を合わせると90%近い生徒が受容されている感覚をもって学校生活を送ることができている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して「当てはまる」と回答した生徒の割合は80%、「どちらかといえば、当てはまる」を合わせて94%となり、自分のよいところを社会に活かそうとする姿勢をもった生徒が多い。

◆本校の課題と思われるところ

- 普段(月曜日から金曜日)の、テレビゲームやSNS、動画視聴に費やす時間が4時間を超える生徒の割合が、それぞれ20%前後で県の平均並み、全国平均よりはやや多い。スマホ等の使い方については、家の人と約束したことを守っているという回答の割合が比較的高いので、一概に問題視されるものではないが、気にしておくべき項目である。

今後の具体的な取組について

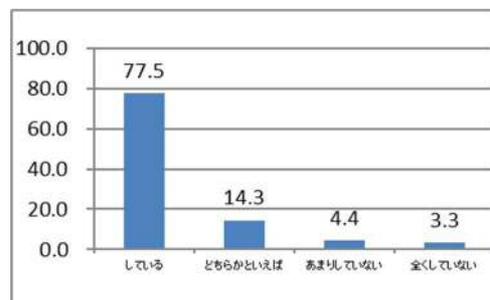
- 学校教育目標「地域とともに生き、たくましく、しなやかに未来を拓く生徒の育成」の実現を目指し、地域や周囲の人たちとの関係の中で自分を大切にすることを育成します。
- ICT機器を活用した授業等の取組を進めるとともに、情報リテラシー教育を充実させ、溢れる情報に流されず適切にそれを活用する能力を伸ばしていきます。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の生徒質問紙の結果です。

1 規則正しい生活を続けていきましょう

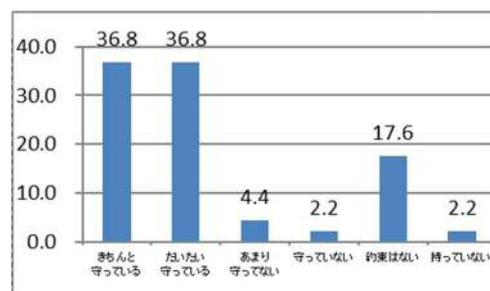
毎日、朝ご飯を食べることで活動や学習のための体の準備ができます。これは生活全体のリズムを保つうえでも大切なことです。



朝食を毎日食べていますか

2 機器の適切な使用について話し合きましょう

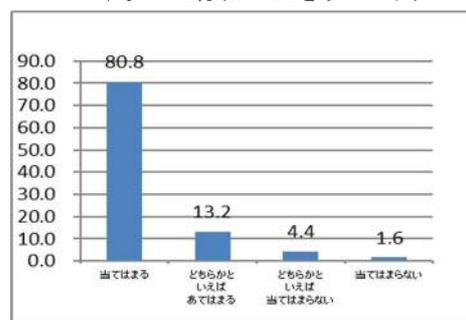
携帯やスマホの使い方について、約束を守って使っている様子が窺えます。生活に欠かせないものになりつつあるものと、どのように付き合うか共通理解を図りましょう。



携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

3 できることについて励まし、自己有用感を高めましょう

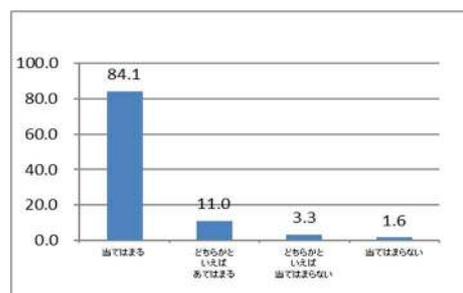
人の役に立ちたいという気持ちを持っている生徒がとても多くいます。「自分にはこれができる」という思い、自分に自信をもって自ら成長できるよう、温かい言葉かけをしていきましょう。



人の役に立つ人間になりたいと思いますか

4 他者を尊重する気持ちを大切にしましょう

いじめはどんな理由があってもいけないことです。わかっている、はっきりと言葉にしたり行動に移したりするのが難しいこともあるでしょう。正しい行動をためらわないよう、一緒に支えていきましょう。



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

結果の公表にあたって

- 公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。
- 公表することによって、保護者や市民の皆様にも市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。
- 「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係